

ICTL スキルチェックテスト

次のうち、正しいものには○、間違っているものには×をつけてください。

タイプ A

問 1

検索エンジンで 2 つ以上のキーワードを入力するときは、間に「+」を入れる。

×

2 つ以上のキーワードを入力する検索方法を「and 検索」と言いますが、このとき複数の単語の間を空白（スペース）で区切って入力します。そのほか、マイナス検索やフレーズ検索など、様々な方法があります。

問 2

検索結果で上位に出てくる情報が正しい情報とは限らない。

○

Web サイトには、検索結果で上位に表示されるように様々な工夫をこらしているものもあるため、検索結果で上位の Web サイトの情報が必ずしも正しいとは限りません。

問 3

検索サイトでは、ニュースやブログの記事だけでなく、動画や写真も検索できる。

○

検索エンジンでは、ニュースやブログなどの文字情報の他に、動画、写真、地図など、インターネット上に存在する様々な種類の情報を検索できます。

問 4

本の名前やことわざなどを検索したい場合は、引用符「“ ”」を用いると良い。

○

書名、ことわざ、固有名詞などを検索したい時は、引用符「“ ”」（例：“社会の情報化”）をつけると、「“ ”」内に書いた語順通りにキーワードが含まれる Web ページだけを検索できます。これを、「フレーズ検索」といいます。引用符をつけないと、フレーズが分割されて「and 検索」になります。

問 5

インターネット上の情報には著作権がないため、著作者に断りなく利用してよい。

×

インターネット上の情報であっても著作権が存在します。引用や私的な利用は、著作者に断りなく行うことができますが、引用文の改変をせずに出所を明記するなどのルールを守る必要があります。普段から情報の出所を確認し、法律を守るように行動しましょう。

問 6

パソコンのウイルス対策のためには、心当たりのないメールに添付されているファイルは、開かないほうがよい。

○

インターネットをめぐる脅威として、ウイルスや不正アクセス等の問題があります。メールを通じたウイルス感染の例としては、知り合いからのメールにみせかけてウイルスに感染した添付ファイルが送られてきたり、ウイルスをもったチェーンメールが送られてきて開くとパソコンがウイルスに感染してしまったりすることなどがあげられます。心当たりのない添付ファイルは、開かないようにしましょう。

問 7

悪意のある Web サイトは存在するが、金銭問題につながることはない。

×

インターネットの Web サイトの中には悪意のある Web サイトが存在し、その中には詐欺目的の Web サイトもあります。たとえば、きちんとした会社の Web サイトをよそおって個人情報を入力させ、個人情報を抜き出す「フィッシング詐欺」が横行しています。クレジットカード番号が抜き取られ、知らないうちにお金が引き出される被害も発生しています。緊急をよそおった言葉などに惑わされず、個人情報の入力には慎重に行いましょう。

問 8

無料のゲームでも高額料金の請求につながる場合がある。

○

はじめは無料や低価格で利用できるゲームでも、いつの間にか有料の段階に入ってしまう、最終的には高額料金を請求される場合があります。また、ゲームの利用料が途中から高くなるケースもあります。ゲームに夢中になっていると判断が鈍くなりがちなので、気をつけましょう。

問 9

情報セキュリティ対策の一つとして、ソフトウェア会社が提供する修正プログラムの更新を忘れずに行う。

○

ソフトウェアを忘れずに最新版に更新することが、セキュリティ対策につながります。ウイルス対策ソフトを導入した後も、プログラムを更新していくことでより安全性が高まります。

問 10

ID とパスワードは、どの Web サイトでも同じにするのが望ましい。

×

ネットショッピングにおいて、複数の Web サイトで同じ ID とパスワードを用いると、ひとつの Web サイトで個人情報等が流出した場合、他の Web サイトでも悪用される可能性があります。ID とパスワードは、Web サイトによって使い分けるとよいでしょう。さらに、パスワードは同じものを使い続けるのではなく、定期的に更新していくことでセキュリティ効果が高まります。

問 11

スマートフォンは、従来型の携帯電話よりも安全性が高い。

×

スマートフォンを利用すると、インターネットでつながる機会が増え、またアプリケーションをダウンロードできるなど便利なことも多いですが、持ち運びできるパソコンのようなもので、ウイルス感染の機会も増加します。そのため、従来型の携帯電話以上に危険も多いので、注意が必要です。

問 12

Web サイトを利用して高額請求をされたら、とりあえず支払わなければならない。

×

Web サイトを利用して身に覚えのない請求がきてしまったら、支払わずにまずは公的機関へ相談しましょう。脅しや取り立てを受けた場合は警察に行くといよいでしょう。また、危険な Web サイトかどうかを見分け、被害にあわないようにするために、利用規約や Web サイト運営者の連絡先等が掲載されているかなどを確認し、個人情報の入力は慎重に行いましょう。

問 13

インターネット上の情報は、すべて信頼できるものである。

×

インターネット上の情報は、根拠のあるものとなないものが入り混じって存在しています。これらの情報を参考にする場合は、インターネット上の様々な発信元の情報を比較・検討したり、新聞や本などのインターネット以外の情報源を参考したりしましょう。

問 14

アプリケーションは必ずしも安全なものとは限らないため、ダウンロードする前に発信元などを確認したほうがよい。

○

アプリケーション(アプリ)の制作者は、企業から個人までさまざまです。特に Android 端末向けのアプリは自由にアプリを配布・インストールできるため、たとえば情報を流出させるためのアプリなど、犯罪目的のものも存在します。アプリをダウンロードする前に発信元を確認したり、インターネットでそのアプリの評価について調べたりして、少しでもあやしいと感じたらダウンロードを控えましょう。また、ウイルス対策ソフトを導入して、日ごろから被害を最小限にする対策をしておきましょう。

問 15

チェーンメール(多数の人に転送するようにうながすメール)が知らない人から届いたら、内容が正しいとは限らないので転送すべきではない。

○

本当の情報かどうかがわからない情報を、友人にメールで転送したり SNS で発信したりすることは危険です。全ての情報の真偽を見極めるのは困難ですが、間違った情報を流すことに荷担する可能性があります。2011 年の東日本大震災の際には、「有害物質が発生して雨に混ざって降り注ぐ」という根拠があいまいな内容のチェーンメールが広がった例もあります。